

4 学校環境整備

避難経路の確認、訓練での避難誘導の際に、校舎の構造や校内の環境に多くの課題があることがわかった。それらを整備した上で日常的に使用し、意識づけておくことで、災害時にも対応できるのではないかと考え、災害時を想定した学校環境整備を進めた。

(1) 災害時を想定した学校環境整備

① 階段の色分け

校舎が広く、避難の際の位置確認や避難経路決定等の共通理解が困難だった。本校には、様々な実態の児童生徒がいるため、「見て」、「聞いて」識別がしやすいように各階段を色分けすることにした。色ケント紙をラミネートし、強力粘着テープで貼った。



くろ



みどり



あか



あお

児童生徒とともに作業を行うことで、階段の色を意識することにつながった。また、他の児童生徒が認識しやすい位置等を考えながら貼る様子も見られた。



② 避難誘導



裏面



防火戸

防火戸は、火災の際に閉まってしまうと階段の識別が困難になる。そこで、閉じてしまっても識別できるように色を示している。

防火戸は、マグネット使用可能なため、裏面にマグネットを取り付け、避難誘導時に使用できるように矢印を記している。

③ 学校用車椅子の設置

災害時、移動用として緊急に車椅子を必要とする場合に備えて、教室棟各階に学校用車椅子を1台ずつ設置している。



④ 緊急用笛の設置

緊急時、自分の居場所を知らせたり応援要請したりする際のために、校舎内の12箇所に緊急用笛を設置している。



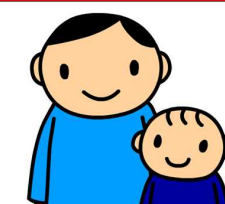
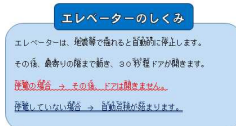
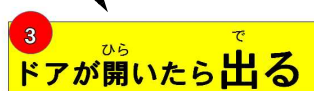
⑤ 問診票の設置



災害時の傷病等に備えて、日常時に保健室で利用する「来室カード」を各教室に設置した。災害時にスムーズに使用することを目的に、日常時での緊急対応や傷病でも使用できるようにした。また、第一発見者と養護教諭、看護師、医療機関との連携も取りやすくした。

⑥ エレベータールール

エレベータに乗る際のルール、エレベータ内で災害が起きた際の対応の仕方とともに、災害時、エレベータはどのようになるのかを提示した。



おとな 大人
みんな みんな
小学部・中学部・高等部

⑦ 消火栓ルール



火災時、消火栓をどのように使用するかを示すことで、消火栓の大事さを伝えるようにした。周囲に物を置かないことを提示した。